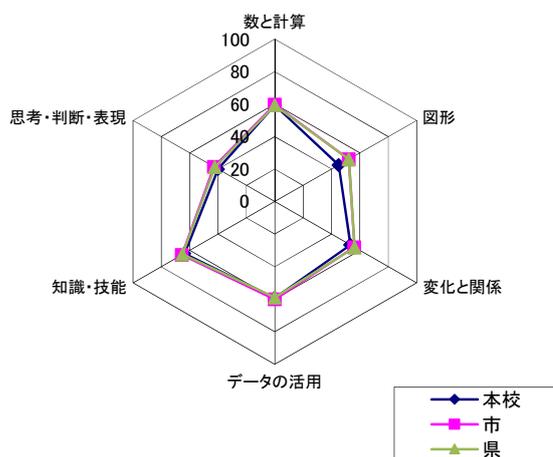


宇都宮市立東小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.3	59.7	59.2
	図形	45.0	52.1	52.1
	変化と関係	53.3	56.1	56.3
	データの活用	59.2	60.1	58.9
観点	知識・技能	63.7	65.5	65.1
	思考・判断・表現	40.0	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均と同程度である。</p> <p>○大きい数のしくみや大小、数直線上での分数の大きさでは、県の平均を10ポイント上回っていた。また、四則の計算の順序や式の意味を言葉で説明する問題等でも、県平均を上回っていた。</p> <p>●小数の大きさ、異数分母の分数の大小、文章問題で概数を扱う問題、小数のたし算の意味の説明を自分で考える問題等で県平均を下回った。</p>	<p>・異数分母や羅列された小数の大小など、その数自体の大きさをイメージしにくい問題についての誤答が目立っていたため、分数や小数においても、その数の大きさの概念を育てるような指導が必要であると思われる。</p> <p>・応用問題を解く場面においては、できるだけ児童らが答えを見積ったり、児童が自らの言葉で考え方をまとめたりする経験を大切にしながら学習を進めていきたい。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均を7.1ポイント下回った。</p> <p>○いろいろな面積の求め方や面積の単位の説明では県平均を上回るか同程度であった。</p> <p>●大きな角度を求めたり、ハガキの面積を推測したりする問題、ひし形の作図をする問題で県平均を下回った。なかでもひし形の作図をする問題では、県平均74.7%に対して46.7%と大きく下回っていた。</p>	<p>・面積や体積の学習では、実際にどのくらいの大きさになるのかを一緒に考えるようにすることが大切であると思われる。</p> <p>・角の大きさを図ったり、図形を作図したりする学習では、定規や分度器、コンパスなどの道具を使って作図する経験を十分に積ませる必要があると思われる。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、県平均をやや下回った。</p> <p>○表を横に見て、伴って変わる2つの数量の関係について読み取ることができるかどうかの問題は、正答率80%とよくできていた。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係について分かることを説明できるかどうかをみる問題では、県平均20ポイントと低い正答率のところを、16.7ポイントと下回っていた。</p>	<p>・表を見て答えることはできるが、説明を聞いて表にあてはめて考えることや、「横にみる」「たてに見る」などの説明にも慣れさせる必要がある。</p> <p>・表を見て考えたり話し合ったりする活動を通して理解する力や、文章を読んで整理しながら考える力も育てていく必要があると思われる。</p>
データの活用	<p>正答率は県平均をわずかに上回っていた。</p> <p>○二次元表の読み方を理解しているかどうかを問う問題では、正答率80%と県平均と同じであり、さらに読み取る問題では県平均22.3%のところを30.0%と上回っていた。</p> <p>●2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取ることができるかどうかを問う問題では、県平均55.7%のところを50.0%とやや下回っていた。</p>	<p>・表やグラフを使って考える問題では、児童が自分で表やグラフを使って考える経験が大切であるため、一人一人がどの程度理解できているか、評価をもとに個別に指導する必要があると思われる。</p> <p>・折れ線グラフや棒グラフから、どんなことが読み取れるのかを、子供たちと一緒に丁寧に読み取っていくような活動を積み重ねていきたい。</p>